

### 研究テーマ

学習に必要な物をすばやく準備することができるようになるための支援

1

### 本実践に関連する児童生徒の実態

小学校 高学年児童

#### ○課題

- ・整理整頓が苦手である。
- ・交流学級での学習に向かう際、必要な物を選んで準備をすることが難しく、授業開始に間に合わないことがある。

#### ○強み

- ・交流学級での学習を意欲的に行っている。
- ・大切なことをノートにまとめる力がある。
- ・覚えておきたい内容をメモ帳等を書くことができる。

2

### 指導目標・指導仮説

教科等及び題材名 自立活動の時間  
「学習に必要な物をすばやく準備できるようになるう」

#### 目標

必要な物を準備して、自分の力ですばやく整えることができる。



#### 指導仮説

メモを活用させたり、準備カードを作成させたりすれば、自分の力で学習に必要な物をすばやく準備することができるのではないか。

児童生徒の実態

3

### 指導・評価の計画

◆表1 指導・評価の計画

	主な学習活動	目標	評価方法
1次	準備を素早くすることができる方法を考えよう。	自分自身が継続することができる準備の方法を担任と一つ以上考えることができる。	行動観察
2次	準備をする練習をしてみよう。	自分自身が考えた方法で準備をすればタイムがはやくなっていくかを確かめながら準備することができる。	行動観察 タイム計測 タイムカード
3次	実践し振り返ろう。	以前の準備時間と比べながら実践し、タイムがはやくなったことを実感することができる。	行動観察 タイム計測 タイムカード

◆表2 実践前後の変容の評価

評価内容	評価方法
正しく準備物を整えることができたか 実践前後での、準備が完了するまでの時間	行動観察 タイムカード

4

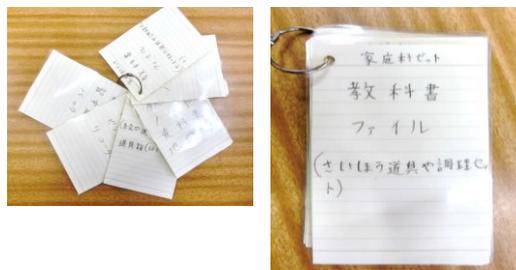
### 指導の実際①



1回ですぐに取り出せるように教科ラベルを貼り、教科書と教科書の間に仕切りを作った。

5

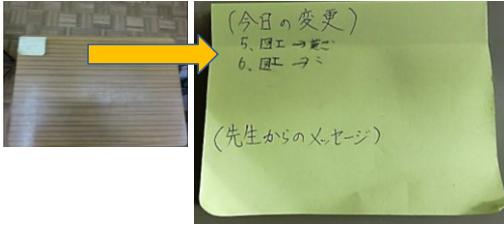
### 指導の実際②



児童と一緒に、教科ごとにどのような物が必要なのかを話し合いながら、一目で理解できるようなカード化した。

6

### 指導の実際③



突然の必要な物の変更にも対応でき、机の上に貼ることができるよう、付箋型メモ帳を持たせた。

### 指導の実際④

	前 回	今 回
①	分 秒	分 秒
②	分 秒	分 秒
③	分 秒	分 秒
(ふり返ってみよう)		

前回の準備時間と一目で比較できるように、タイム表を作成した。

### 学習過程の評価

次	学習活動	児童生徒の状況	達成状況
1	準備を素早くすることができる方法を考えよう。	担任が示した教科書ラベルを見ながら教科ごとに教科書やファイルを整理整頓することができた。整理整頓後、「一目で分かりやすい」と振り返っていた。また、教科ごとに必要な物を自分でまとめ、カード化したことにより、意欲的に活用することができた。付箋型メモ帳を持たせたが、使いこなすことができなかったため、どのようなことを書けば良いのか明記したことで、自ら書くことができるようになった。	○
2	準備の仕方を練習してみよう。	準備をする時間がどれぐらいはやくなったのかわかるために、タイマーを使いながら一緒に練習をした。	◎
3	実践し振り返ろう。	準備カードで何度も確認しながら準備することができた。交流学級から特別支援学級へ忘れ物を取りに帰る回数が減った。	○

### 実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> <li>整理整頓ができていないため、準備時間が長かった。</li> <li>交流学級に移動した後に、3回は忘れ物を取りに帰っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流学級へ行くための準備の時間が短くなった。</li> <li>交流学級に移動した後に忘れ物を取りに帰る回数が1回になった。</li> </ul>

	前 回	今 回
①	7分18秒	3分27秒
②	3分27秒	3分8秒
③	3分8秒	2分43秒
(ふり返ってみよう)		

すいぶん短い時間を準備ができるようになった。  
これからはタイムを縮めていきたい。

### 指導仮説の検証

- 児童生徒は目標を達成したか。
  - ・概ね達成できた。
- 判断の理由・根拠
  - ・交流学級での学習に向かう姿に落ち着きが出てきた。
  - ・忘れ物を取りに帰ることが無くなった。
  - ・すべての学習内容を聞き逃すことが無くなり、交流学級での学習において穏やかな表情が多く見られるようになった。
  - ・突然の必要な物の変更に対して慌てたり、困った表情を浮かべたりすることがある。
  - ・他の場面でも活用してみようという言葉がけに対して、どの場面でも活用したらしいのイメージをもちにくい。
- 指導の工夫は有効であったか
  - ・有効であった。
- 判断の理由・根拠
  - ・本欄に「ラベル」を貼り構造化したことにより、教科書やファイルを1回で取り出しやすくなった。
  - ・自分で「準備カード」を作成したことにより、担任に何を準備すれば良いのか質問をすることが無くなった。
  - ・「すばやく準備できたよタイム表」を作成したことで、準備時間が短縮していていることを視覚的に理解しやすくなった。

### 指導の改善案

成果（よかった点）	課題（改善が必要な点）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を種類ごとに分けて置くことにより、1回で必要な教科書が取り出せるようになり準備の時間短縮につながった。</li> <li>・交流学級の授業に必要な物を本人と話し合いながらカード化したことにより、カードを振り所しながら準備することができたので、用意し忘れることが無くなった。その結果、何度も教室間を往復することが無くなった。</li> <li>・メモ帳を持たせることにより、とっさの必要な物の変更にも対応できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、担任が教科書の棚を整理整頓できるように教科ごとにラベルを書いて貼ったり、仕切りを作ったりしたが、自分で道具箱の中や家庭など、他の物や場所でもラベルを貼って整理整頓しやすくしていこうという考えまでには至っていない。</li> <li>・教室間を往復する回数を可視化するなどで意識付けていなかったことから、忘れ物を取りに帰る回数が減っていることについての認識が低かった。準備した時間だけを見て評価するのではなく、忘れ物が無くなったことなどが一目で分かるような評価表も工夫していく必要があった。</li> </ul>

#### 成果・課題を踏まえた改善案

・今回有効だった「ラベルや仕切り」「必要な物カード」を使い、自分の机の中や家庭でも活用することができるよう指導・支援をする。